

# 平成29年度私立高校入学生の保護者を対象とした 高校選択満足度調査の結果について

平成30年3月  
大阪府教育庁私学課

大阪府では、子どもたちが、中学校卒業時の進路選択段階で、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を保障することを目的に、平成23年度の新1年生から、私立高校の授業料無償化制度（私立高等学校等授業料支援補助金）を実施しています。

この無償化制度の効果検証の一環として、平成29年4月に入学した私立高校生の保護者を対象として、高校選択に関する満足度調査を平成29年11月から平成30年1月に実施しました。

本調査は、平成23年度以降の新入生に対し、毎年度実施しており、今年度で7回目の実施となります。

## 【調査結果の概要】

- **在籍校に対する満足度は、「全体を通して満足」しているという肯定的な意見が72.9%であった。**

在籍校に対する満足度は、「生活指導面」に関して満足しているという肯定的な意見が7割となったほか、「学習指導面」、「教員」、「進路指導面」、「施設・設備面」、「特色ある教育活動」においても肯定的な意見が6割であった。「全体を通して」では、72.9%（H28：73.1%、H27：78.8%、H26：72.1%）が肯定的な意見であった。

- **「授業料無償化制度があったから、私立高校への進学を選択した」とする割合は、年収590万円未満世帯で78.0%であった。**

この制度があったから私立高校への進学を選択したとする大阪府に在住している保護者の割合は、世帯の年収で区分して見ると、年収800万円未満世帯では70.0%（H28：72.7%、H27：76.9%、H26：78.3%）、590万円未満世帯では78.0%（H28：77.2%、H27：80.8%、H26：82.4% ※1）であった。

- **入学した私立高校を選んだ理由は、「進学指導に実績があること」が65.2%で、最も多かった。**

入学した私立高校を選んだ理由については、「進学指導に実績があること（65.2%）」（H28：66.1%、H27：69.8%、H26：66.3%）が最も多く、次いで「基礎学力が身につく教育を行っていること（64.9%）」（H28：64.6%、H27：68.7%、H26：65.6%）となっている。

- **私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、10万円（月1万円程度）が妥当と考える割合が最も多く、全体の24.7%であった。**

「10万円（月1万円程度）」が妥当と考える割合は、世帯の年収で区分して見ると、年収800万円未満世帯では28.1%（H28：26.3%）、年収590万円未満世帯では27.0%（H28：26.1%）となっており、いずれの所得区分で見ても、最も多かった。

※1 H26、H27の割合は年収610万円未満世帯の回答

## 【満足度調査について】

### 1 目的

平成29年4月に入学した私立高校生の保護者を対象として、学校等に対する満足度、授業料無償化制度の認知状況や進路選択に与えた影響などの調査を実施し、授業料無償化制度の効果を検証するとともに、今後の施策検討の参考とする。

### 2 対象

平成29年4月に府内の全日制私立高校（91校）に入学した高校1年生のうち、各校が選定したクラスに属する生徒の保護者3,579人（H28:3,272人、H27:3,334人 H26:3,299人）

### 3 実施方法

平成29年11月に府内の私立高校へ調査用紙を配布し、各学校において調査対象クラスを選定の上、対象生徒を通じて保護者に調査用紙を配布。2月22日までに3,280人（H28:2,978人、H27:1,302人、H26:1,318人）の保護者から回答を得た。

問1 入学された私立高校を選ばれた理由についてお聞きます。

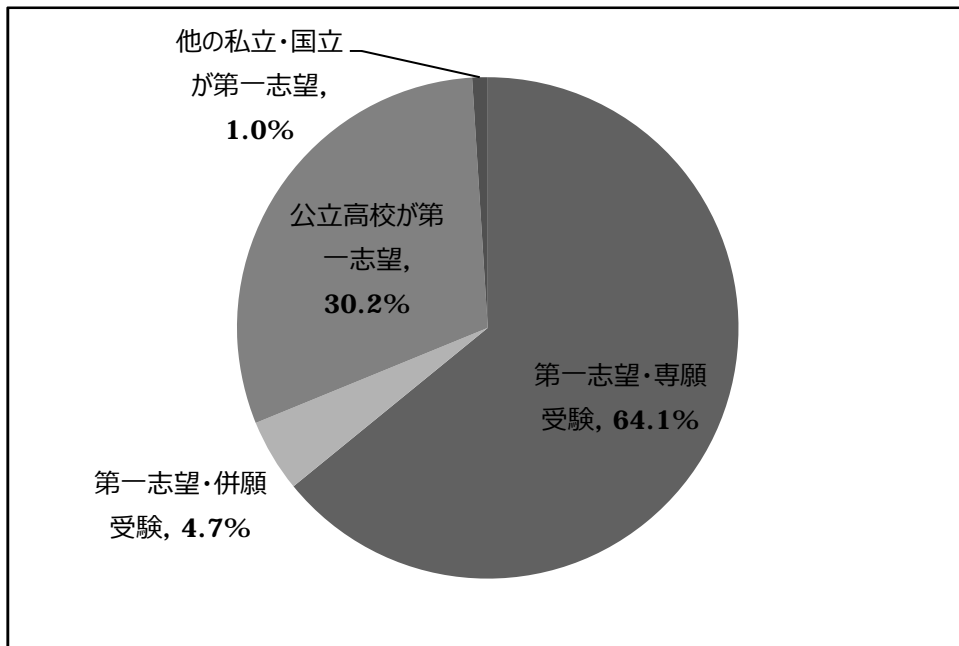


○ 入学した私立高校を選んだ理由は、「進学指導に実績があること」が65.2%と最も多い

※28年度調査：「進学指導に実績があること（66.1%）」が最も多い

- 入学した私立高校を選んだ理由について項目を示して聞いたところ、「決定的な理由になった」と「ある程度理由になった」を合わせた肯定的な意見としては、「進学指導に実績があること（65.2%）」（H28：66.1%、H27：69.8%、H26：66.3%）が最も多く、次いで「基礎学力が身につく教育を行っていること（64.9%）」（H28：64.6%、H27：68.7%、H26：65.6%）、「希望する学科やコースがあること（64.0%）」（H28：64.3%、H27：62.4%、H26：67.0%）となっている。
- 「あまり理由にならなかった」と「まったく理由にならなかった」を合わせた否定的な意見としては、「宗教教育が受けられること（90.1%）」（H28：89.8%、H27：90.5%、H26：90.0%）が最も多く、次いで「一緒に進学する友人がいること（86.7%）」（H28：87.2%、H27：89.4%、H26：90.1%）となっている。

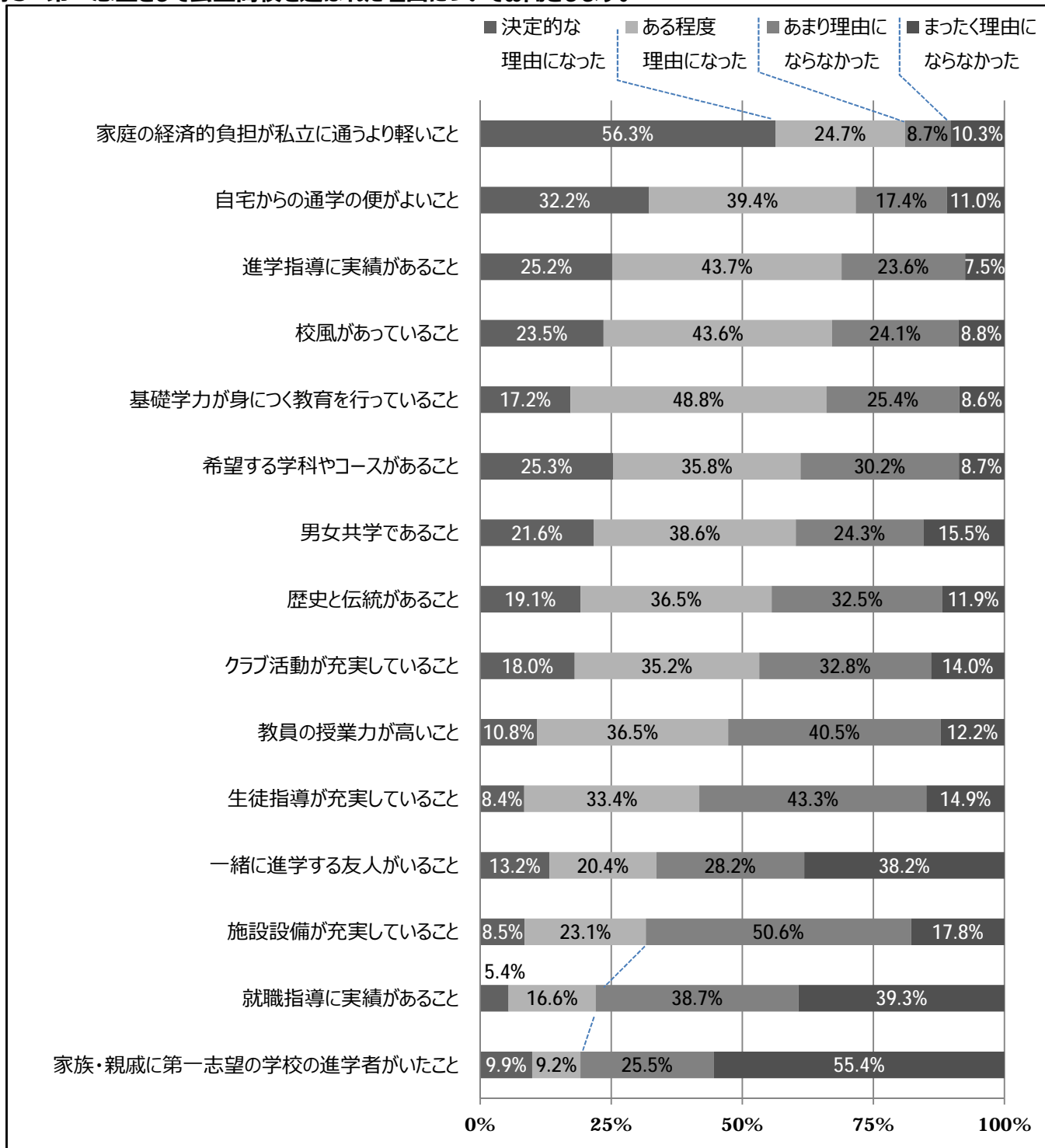
問2 入学された私立高校はお子様の第一志望でしたか。



○ 64.1%の生徒が、在籍校が第一志望であったので、専願受験により入学したとしている

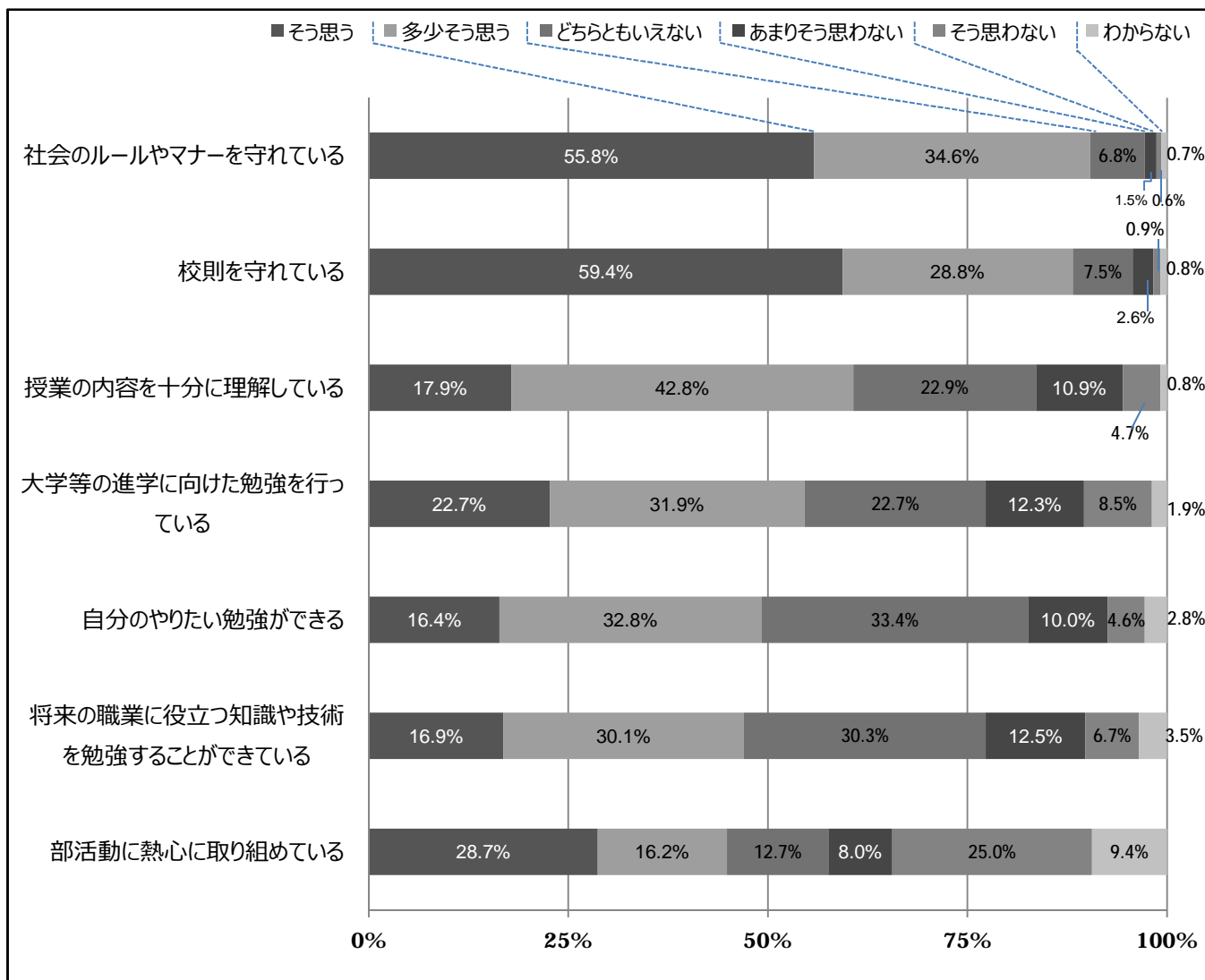
- ・ 入学した私立高校が第一志望であったかどうかを聞いたところ、「第一志望であったので、当該校を専願受験した(64.1%)」(H28 : 63.6%、H27 : 64.3%、H26 : 65.3%) が最も多かった。また、「第一志望であったが、当該校を併願受験した(4.7%)」(H28 : 4.7%、H27 : 3.3%、H26 : 3.3%) も少なからずあった。
- ・ 「公立高校が第一志望であったが、当該校を併願受験した(30.2%)」(H28 : 29.7%、H27 : 30.5%、H26 : 29.7%) は 約3割となっており、昨年度に比べ0.5ポイント増えた。

問3 第一志望として公立高校を選ばれた理由についてお聞きます。



- **公立高校を第一志望に選んだ理由は、「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと」が81.0%と最も多い**  
 ※28年度調査：「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと（80.4%）」が最も多い
- ・ 公立高校を第一志望に選んだ理由について項目を示して聞いたところ、「決定的な理由になった」と「ある程度理由になった」を合わせた肯定的な意見としては、「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと（81.0%）」（H28：80.4%、H27：84.2%、H26：88.5%）が最も多く、次いで、「自宅からの通学の便がよいこと（71.6%）」（H28：72.3%、H27：74.5%、H26：81.5%）及び「進学指導に実績があること（68.9%）」（H28：67.4%、H27：71.8%、H26：70.3%）となっている。
- ・ 「あまり理由にならなかった」と「まったく理由にならなかった」を合わせた否定的な意見としては、「家族・親戚に第一志望の学校の進学者がいたこと（80.9%）」（H28：80.3%、H27：78.3%、H26：81.2%）が最も多く、次いで「就職指導に実績があること（78.0%）」（H28：79.1%、H27：84.1%、H26：85.3%）となっている。

問4 お子様の現在の高校生活について、お聞きます。

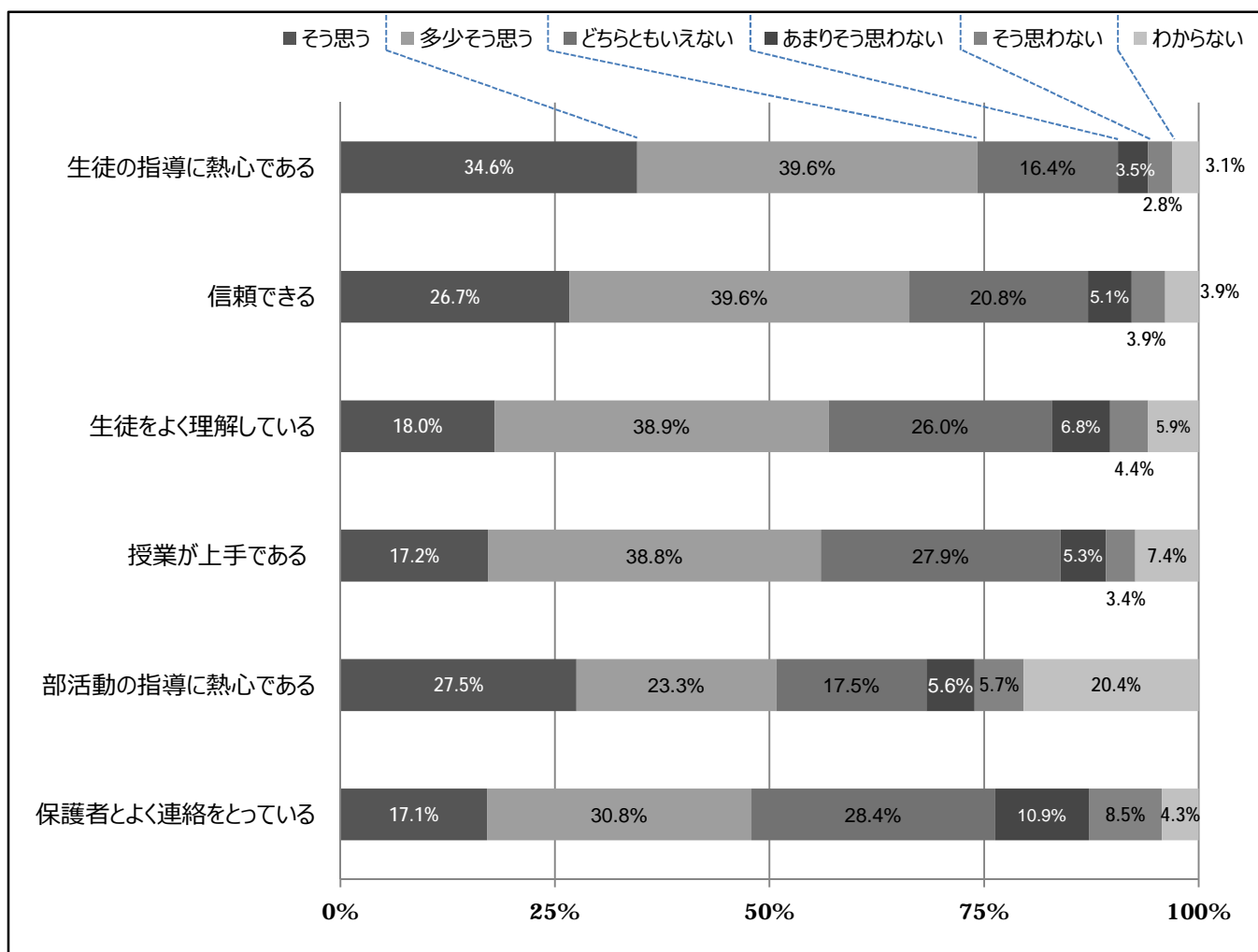


○ 現在の高校生活については、「社会のルールやマナーが守られている」が 90.4%と最も多く、次いで「校則を守れている」が 88.2%となっている

※28年度調査：「社会のルールやマナーが守られている（91.9%）」が最も多い

- ・ 現在の高校生活について聞いたところ、「そう思う」と「多少そう思う」を合わせた肯定的な意見としては、「社会のルールやマナーが守られている（90.4%）」（H28：91.9%、H27：93.1%、H26：92.6%）が最も多く、次いで「校則を守れている（88.2%）」（H28：90.0%、H27：92.3%、H26：90.8%）が9割弱、「授業の内容を十分に理解している（60.7%）」（H28：60.9%、H27：65.7%、H26：67.0%）及び「大学等の進学に向けた勉強を行っている（54.6%）」（H28：55.6%、H27：63.3%、H26：62.7%）が6割弱となっている。
- ・ 「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「部活動に熱心に取り組んでいる（33.0%）」（H28：34.3%、H27：35.6%、H26：35.3%）であり、3割を超えている。

問5 学校の先生について、お聞きます。

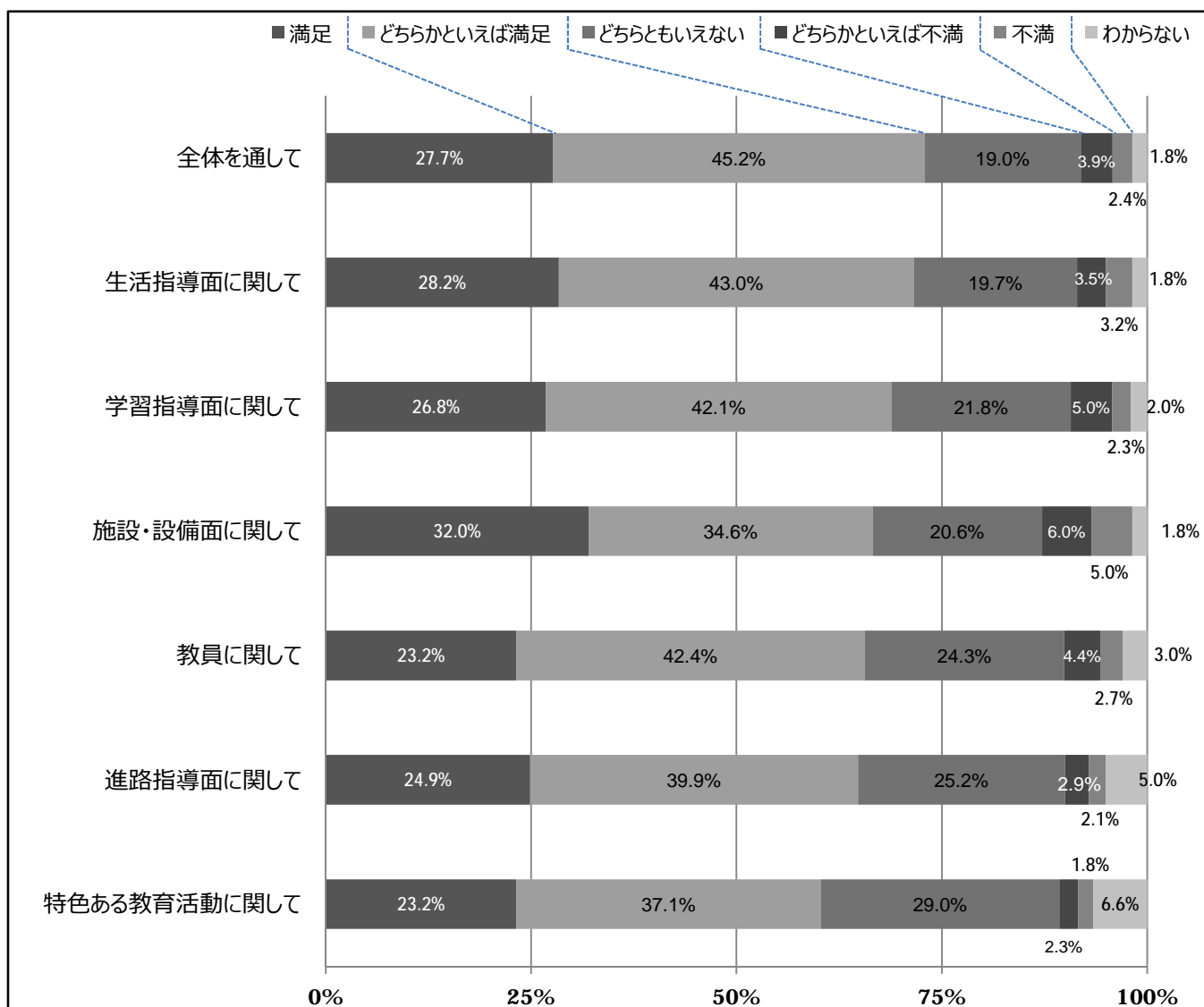


○ 学校の先生については、「生徒の指導に熱心である」が 74.2%と最も多くなっている

※28年度調査：「生徒の指導に熱心である（76.5%）」が最も多い

- 学校の先生について聞いたところ、「そう思う」と「多少そう思う」を合わせた肯定的な意見としては、「生徒の指導に熱心である（74.2%）」（H28：76.5%、H27：80.1%、H26：74.6%）が最も多く、次いで「信頼できる（66.3%）」（H28：68.7%、H27：71.7%、H26：66.9%）が7割弱、「生徒をよく理解している（56.9%）」（H28：60.7%、H27：64.2%、H26：58.3%）が6割弱となっている。
- 「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「保護者とよく連絡をとっている（19.4%）」（H28：17.6%、H27：16.7%、H26：21.6%）であり、2割弱となっている。

問6 入学された私立高校に満足していますか。

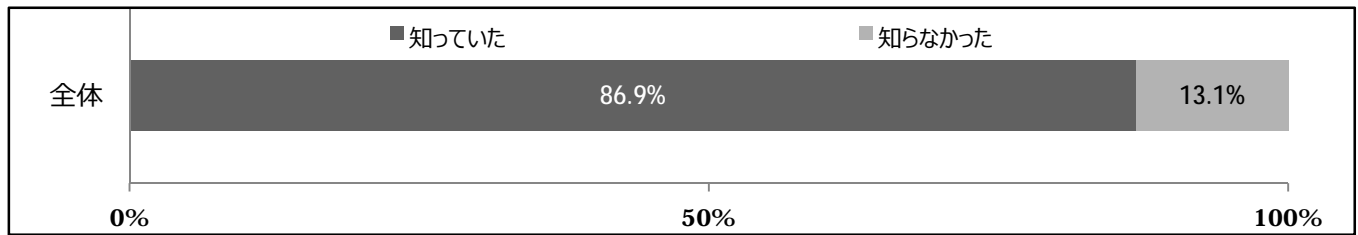


○ 入学した私立高校に対する満足度は、「全体を通して満足」しているという肯定的な意見が **72.9%**となっている  
 ※28年度調査：73.1%

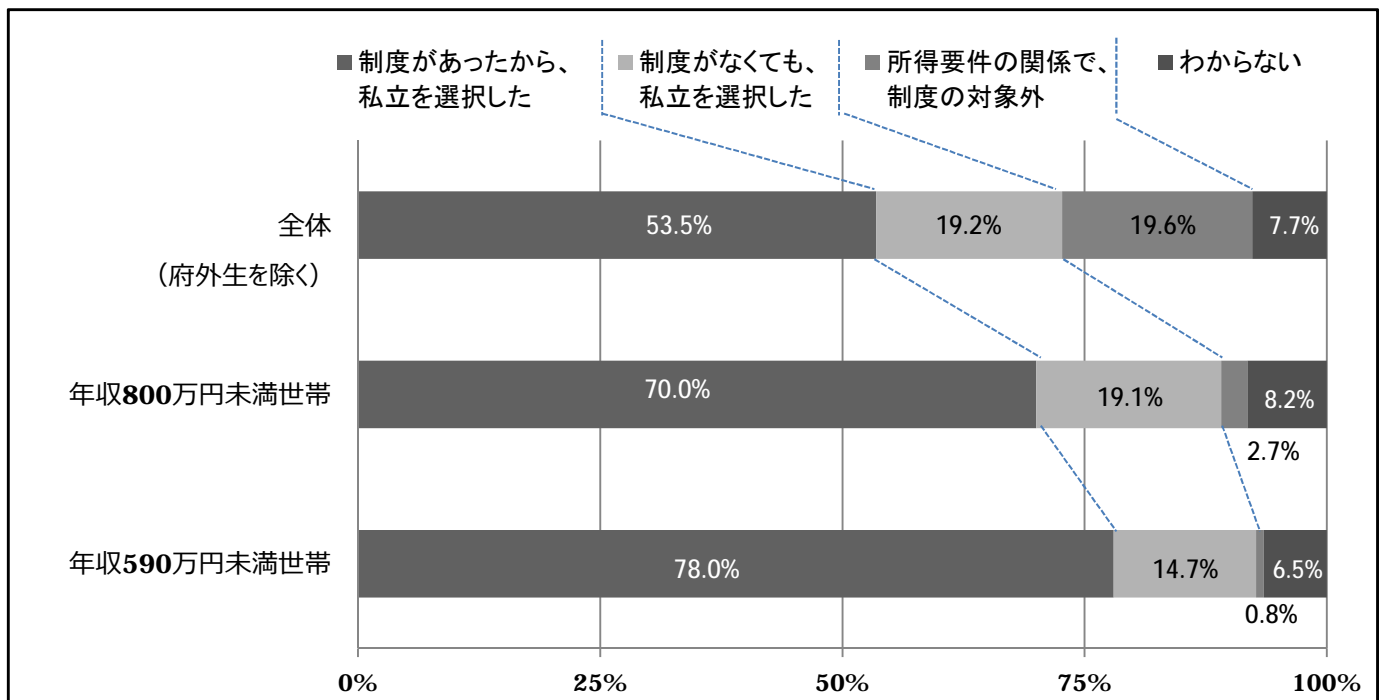
- 入学した私立高校に対する満足度について聞いたところ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた肯定的な意見としては、「全体を通して（72.9%）」（H28：73.1%、H27：78.8%、H26：72.1%）が最も多く、次いで、「生活指導面に関して（71.2%）」（H28：73.5%、H27：77.8%、H26：73.0%）、「学習指導面に関して（68.9%）」（H28：70.5%、H27：74.7%、H26：71.9%）であり、ともに7割程度となっている。
- 「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「施設・設備面に関して（11.0%）」（H28：12.6%、H27：12.2%、H26：11.2%）であり、約1割となっている。



**問7 お子様を私立高校に通わせるにあたって、大阪府の授業料無償化制度（授業料支援補助金）のことを知っていましたか。**



**問8 授業料無償化制度（授業料支援補助金）があったから、私立高校への進学を選択しましたか。**



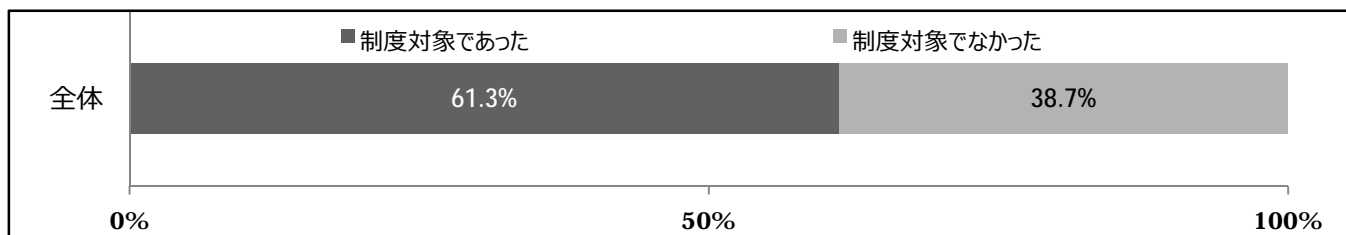
○ 大阪府の「授業料支援補助金制度」を知っていた割合は **86.9%**（28年度調査大**87.8%**）。また、大阪府に在住している保護者のうち、「制度があったから、私立高校への進学を選択した」とする割合は、年収590万円未満世帯で **78.0%**（28年度調査：**77.2%**）となっている

- 大阪府の「授業料支援補助金制度」を知っていたかを聞いたところ、「知っていた（**86.9%**）」（H28：**87.8%**、H27：**92.3%**、H26：**92.0%**）が9割強、「知らなかった（**13.1%**）」（H28：**12.2%**、H27：**7.7%**、H26：**8.0%**）は1割強となっている。
- また、この制度があったから私立高校への進学を選択したかを聞いたところ、大阪府に在住している保護者全体では、「制度があったから、私立高校への進学を選択した（**53.5%**）」（H28：**54.7%**、H27：**57.0%**、H26：**58.8%**）が5割強となっており、「制度がなくても、私立高校への進学を選択した（**19.2%**）」（H28：**19.9%**、H27：**16.0%**、H26：**15.6%**）は、2割を下回っている。
- これを世帯の年収で区分して見た場合、「制度があったから、私立高校への進学を選択した」とする割合は、年収800万円未満世帯では **70.0%**（H28：**72.7%**、H27：**76.9%**、H26：**78.3%**）、年収590万円未満世帯では **78.0%**（H28：**77.2%**、H27：**80.8%**、H26：**82.4%** ※1）となっており、世帯年収が低くなるほど、割合が高くなっている。

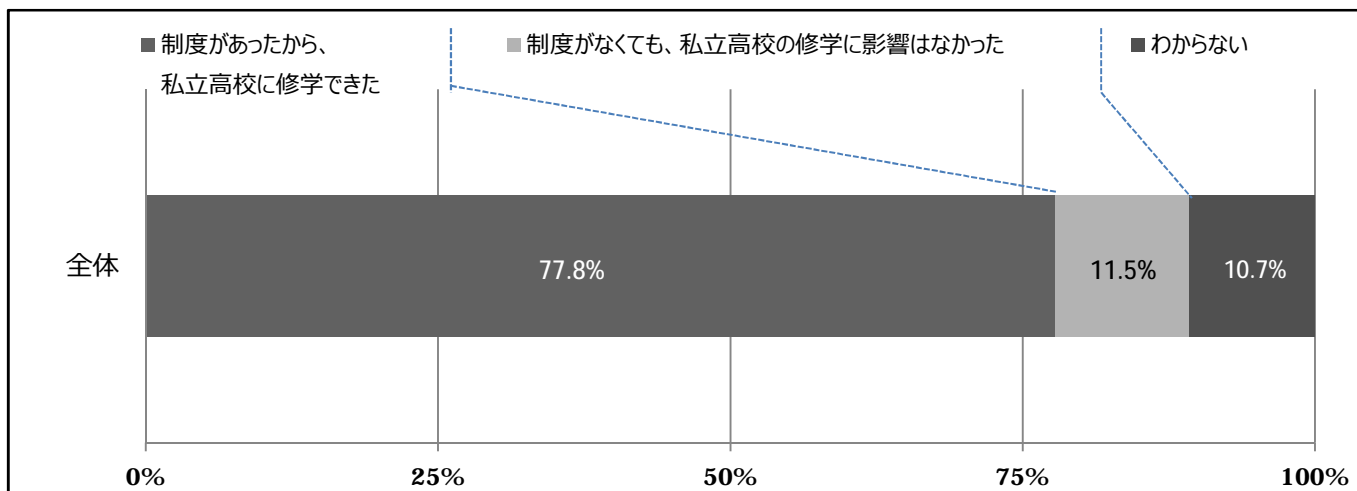
※1 H26、H27の割合は年収610万円未満世帯の回答



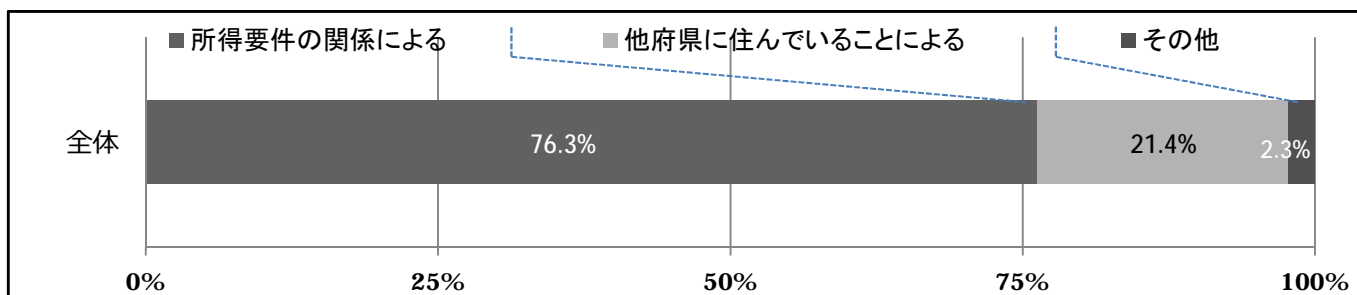
**問9 あなたは授業料無償化制度（授業料支援補助金制度）の対象でしたか。**



**問9-2 問9で「制度対象であった」とお答えいただいた方について授業料無償化制度により、私立高校の修学にどのような影響がありましたか。**

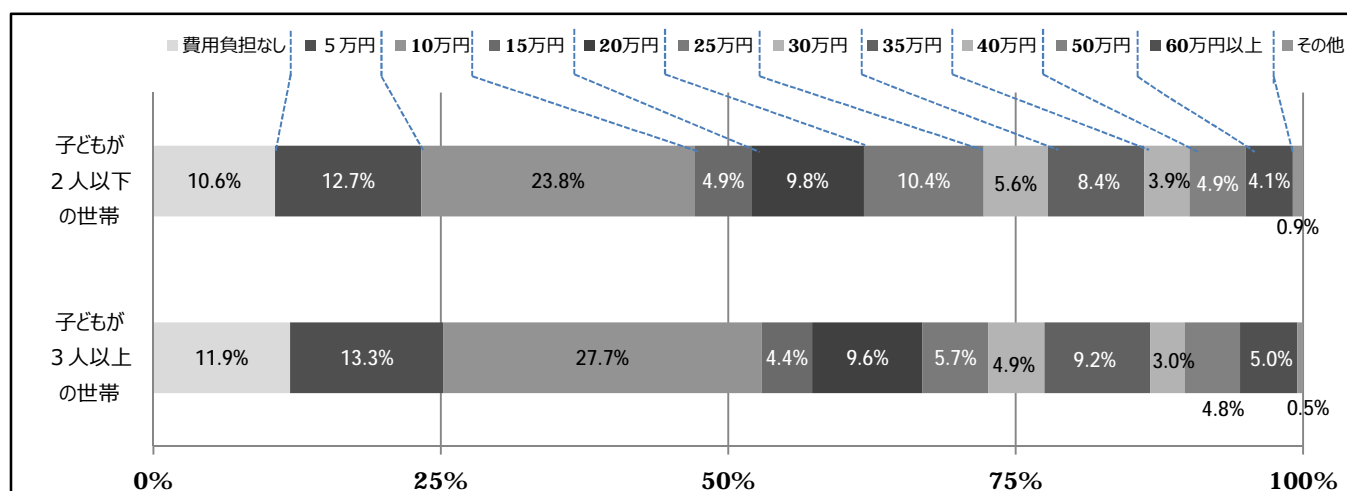
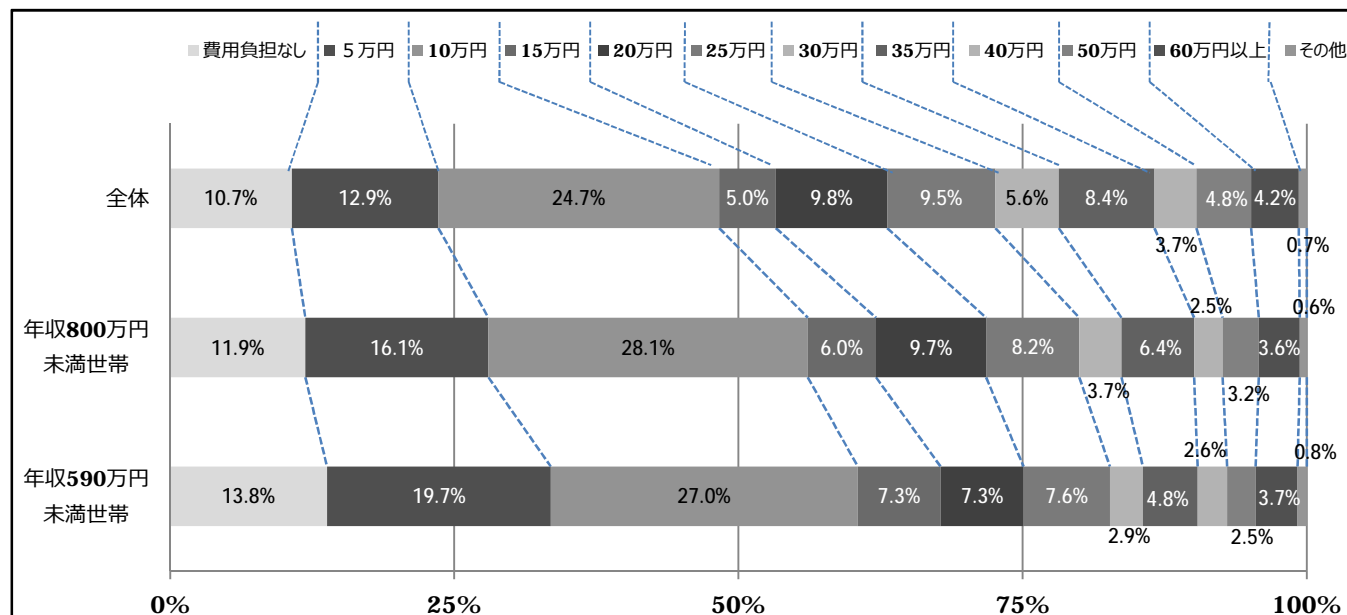


**問9-3 問9で「制度対象でなかった」とお答えいただいた方について授業料無償化制度の対象にならなかった理由はなんですか。**



## 問10 私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、どの程度が妥当とお考えですか。

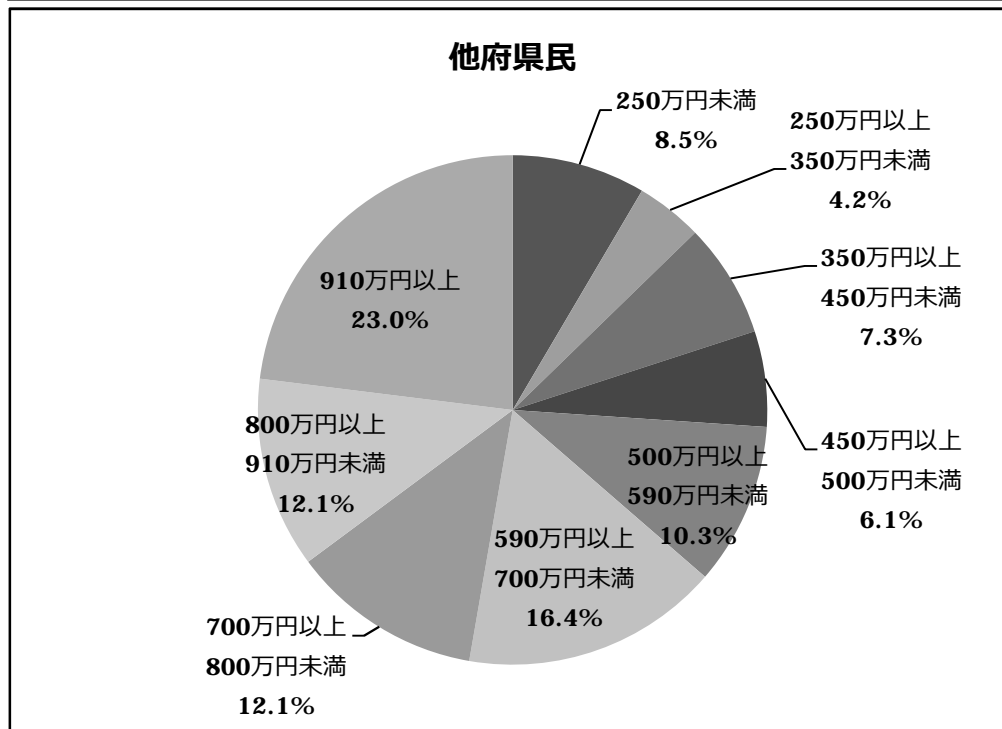
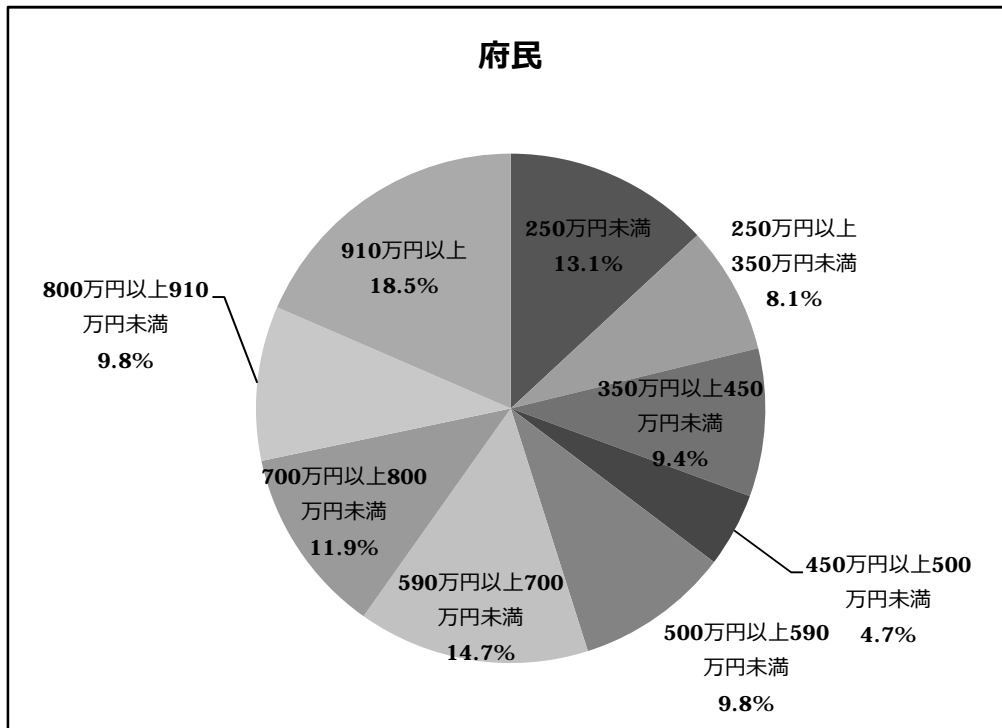
（注）「私立高校ならではの教育」とは、英語力・学力向上のための特色ある取組み、ICT環境・人工芝などの充実した施設等をいいます。



○ 私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、10万円（月1万円程度）が妥当と考える割合が最も多く、全体の24.7%（平成28年度調査：23.7%）となっている。

- ・ 私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、どの程度が妥当か聞いたところ、「10万円（月1万円程度）」が妥当と考える割合は、全体では**24.7%**（H28：23.7%）、年収800万円未満世帯では**28.1%**（H28：26.3%）、年収590万円未満世帯では**27.0%**（H28：26.1%）となっており、いずれの所得区分で見ても、最も多くなっている。また、世帯における子どもの数が2人以下の世帯では**23.8%**（H28：23.2%）、3人以上の世帯では**27.7%**（H28：27.1%）となっている。
- ・ 「費用負担なし」とする割合は、全体では**10.7%**（H28：12.2%）、年収800万円未満世帯では**11.9%**（H28：14.4%）、年収590万円未満世帯では**13.8%**（H28：17.3%）となっている。世帯の年収が低くなるほど割合は高くなっている。また、世帯における子どもの数が2人以下の世帯では**10.6%**（H28：11.5%）、3人以上の世帯では**11.9%**（H28：14.3%）となっている。

問11 あなたの世帯のおおよその年収をお尋ねします。



- **大阪府に在住している保護者のうち、世帯年収590万円未満の割合は 45.1%、世帯年収800万円未満の割合は 71.7%となっている** ※28年度調査：590万円未満は48.7%、800万円未満は70.1%
- ・ 世帯の年収について聞いたところ、大阪府に在住している保護者については、590万円未満の割合は 45.1%（H28：48.7%、H27：46.6%、H26：48.7% ※1）、800万円未満の割合は 71.7%（H28：70.1%、H27：69.7%、H26：71.7%）となっている。
- ・ なお、他府県から大阪の私立高校に通っている世帯の年収は、590万円未満の割合は 36.4%（H28：34.4%、H27：41.2%、H26：40.0% ※1）、800万円未満の割合は 64.9%（H28：58.3%、H27：58.8%、H26：72.7%）となっている。

※1 H26、H27の割合は年収610万円未満世帯の回答